



「総括事務局1年目の業務を終えて」

北海道特別支援教育研究協議会総括事務局次長 西野 護
(北海道札幌稲穂高等支援学校)

立春が過ぎ、ようやく寒さも緩みはじめ、日に日に春の訪れを感じる季節となりました。会員の皆様におかれましては、年度末の校務、そして新型コロナウイルスへの対応等でお忙しい日々を送られていることと存じます。日ごろより北海道特別支援教育研究協議会の活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

さて、平成から令和へと時代が変わる平成31年度（令和元年度）より札幌稲穂高等支援学校が総括事務局を担当させていただきました。運営につきましては、至らぬ点が多々あったと思いますが、皆様の御協力を得て、無事1年目の業務を終えることができました。心より感謝申し上げます。

特に、小平高等養護学校、札幌養護学校、七飯養護学校、紋別養護学校の各地区事務局校の皆様には、地区研究大会の準備・開催・運営、地区研究協議会の開催にご尽力いただき誠にありがとうございました。研究紀要第41号の各地区研究大会の報告からも、それぞれ地域のニーズに基づいた企画・運営が創意工夫され、活発な意見交換・情報交換が行われた様子が伝わってまいりました。

さて、次年度について、全道大会を札幌稲穂高等支援学校にて行う予定となっておりますが、新型コロナウイルスによる感染症の流行が今後どのように推移していくか、今時点で全く見通しがたない状況です。また、各校今後の学校教育の見通しも立っていない状況かと思えます。このような状況化で予定通り7月末に大会を行うべきかどうかについて、現在総括事務局を中心に役員、各地区代表校においてご検討いただいているところであります。つきましては、今後の方針等ある程度定まった段階で、会員募集を含めたお知らせを行っていきたいと考えております。



令和2年度 北特研役員研究協議会について

下記の日程で開催する予定です。詳しくは後日連絡いたします。

日 時 令和2年5月29日（金）13:00～（予定）
場 所 北海道札幌稲穂高等支援学校 福祉実習室（予定）
参加対象 各地区代表理事（ペテカリ、豊明、美唄、中札内）
役員（会長、副会長、監事） 総括事務局員

「研究紀要第41号」印刷、丁合、製本、梱包の取り組み

今年度も、研究紀要が完成し、会員の皆様のお手元に届いているかと思います。

今年も印刷、丁合、製本、梱包の作業を総括事務局校であります。北海道札幌稲穂高等支援学校の環境・流通サポート科の皆様をお願いいたしました。

学校祭開けの12月中旬から作業に取りかかっていたいただきました。発注数800部、ページ数は145ページあり、数百部ずつ区切って印刷、丁合、製本に取り組んだそうです。「北特研の研究紀要」の作製は、今年で7年目となり、代々先輩から後輩へそのノウハウが受け継がれているようです。



2月末までは、生徒のみなさんで製本作業をしていただいたのですが、新型コロナウイルスによる臨時休校を受けて、そこからは環境・流通サポート科教職員の皆様に発送までの作業に取り組んでいただきました。環境・流通サポート科生徒の皆さんに直接お礼を伝えることができませんでした。登校が始まったときにあらためて伝えたいと思っております。

作業を担当して下さった北海道札幌稲穂高等支援学校の環境・流通サポート科の生徒の皆さん、教職員の皆さんありがとうございました。

(北海道特別支援教育研究協議会 総括事務局 西野 護)

全国大会の御案内

第59回全日本特別支援教育研究連盟全国大会（長崎大会）

○主 題

「共生社会の中で、志をもち自分らしく生きる子どもたち」
～学びの連続性を推進する新たな教育課程の創造～

○期 日

令和2年10月29日(木)・30日(金)

○会 場

1日目(全体会)長崎ブリックホール

2日目(学校見学及び分科会)長崎市内等の小・中・高等学校・特別支援学校
長崎市民会館

※詳しくは、3月中旬に各校にメールにて送付しました「第一次案内」または、全特連ホームページ及び北特研ホームページを御覧ください。

「令和2年度役員研究協議会議案書（草案）」と「令和2年度研究大会運営の手引き（案）」について
各地区の質問、意見及び総括事務局からの回答と提案

2月に各地区において行われました理事研究協議会において、会員の皆様から御質問、御意見をお寄せいただきました。より魅力的で、日頃の実践に役立つ研究会にしていきたいと思っておりますので、議案書草案、研究大会運営の手引きを再度、御熟読いただくようお願いいたします。

「役員研究協議会議案書（草案）」について

内容	各地区から	総括事務局からの回答、提案
4 2年度 事業計画	道北 ・全道大会における生徒指導部会の設置の検討。若い職員も多く、以前と比べ多様な生徒の入学してくる実態もあり、生徒指導に悩んでいる職員が多くいる。長期休業中に行った生徒指導研修会（雨竜や小樽で実施）でも多くの参加者があり、「会員のニーズに応じた魅力ある事業」であり、北特研加入者の増加も見込まれるのではないかと。	道北 ・今後も多様なニーズに応じた部会設定を検討していきます。 なお、令和3年度以降の地区大会におかれましても「研究大会運営の手引き」に記載あるとおり、様々な視点からご検討いただき、前年踏襲に限らない魅力的な会の運営に向けて、ご準備いただきますようお願いいたします。
	道央 ・全道研究大会の期日（令和2年7月28～29日）について	道央 ・オリンピックのマラソン・競歩競技開催の直前であること、サッカー予選の試合がある日であることから、宿泊施設が取れない可能性があるなどの意見がありますが、総括事務局で検討した結果、他の日程候補をあげることが難しい状況であることや、既に講師に依頼をかけている状況であることから、予定通りの期日で開催することで検討しました。 <u>※なお3月時点で新型コロナウイルスの影響が広範囲に及んでいる現状があります。全道大会の開催自体も含めた検討を現在行っております。</u>
5 2年度 会計予算計画	道央 ・研究紀要について印刷費用の高額化に対応するため、データ化を推進してはどうか。	道央 ・今後の会計状況によっては、具体を検討することが必要と考えております。
6 確認事項	道東 道南 ・令和5年度～6年度にかけて、地区大会を行わない地区理事校が出ることになり、運営の方法をうまく引き継がれるよう工夫しなければならない。 ・地区大会を3年行わないと、さらに会員が減り、運営が難しくなるのでは	道東 道南 ・総括事務局、地区事務局含めた全体のローテーションに影響がでないように考えたため、地区大会のない年度が出てしまう形になっています。ご指摘の部分はありますが、総括事務局としては提案通りに進めていければと考えております。

	<p>ないか。魅力的な研究大会を行っていく必要がある。</p> <p>・本来2回行う理事会だが、5月は集まらずメールでのやり取りになった。不具合はなかった。</p>	<p>時代の変化に合わせて、魅力的な研究会となるように、会員のみなさまの建設的でアイデアフルなご意見をぜひ今後ともいただきますと幸いです。今後ともよろしく申し上げます。</p> <p><地区での協議>→8月の道東地区大会に合わせて行ってもよかった。</p> <p>→テレビ会議（できる学校とできない学校がある。レンタルできるのでは）を行ってはどうか。協力ができるところがないか検討してみても良い。</p> <p>→フェイスタイム、ズームなどのソフトの活用。（詳しい教員がいないと難しい）</p> <p>→北見支援学校に集合（予算の部分ではあまり削減できないかもしれないが、距離的には集まりやすくなる）</p> <p>・上記の工夫など各地区でアイデアを募っていただき、地区事務局運営ができますことを願っております。</p> <p>地区の割り振りについても、様々なご意見があろうかと思えます。一方で地区大会を維持するために、できる限り地区の学校数を増やすことも必要との判断で、地区によってはかなり広範囲になってしまう状況となっております。こちらについても、地区大会が行えるようなバランスと、広範囲の地区割りの解決を目指した、建設的な議論を各地区において進めさせていただきますと幸いです。</p>
--	--	---

「研究大会運営の手引き（案）」について

※特に各地区から意見などはありませんでした。

○地区ごとのローテーションについては、今後新設校ができることや、閉校となる状況がありますので、今後も見直しは必要となります。地区理事会などで、ローテーションについても話題にさせていただきますと幸いです。今後ともよろしく願いいたします。

北特研会委員研究助成金による研究の報告を、来年度の研究紀要に掲載予定でしたが、新型コロナウイルスによる感染症の流行が今後どのように推移していくか見通しが立たない状況ですので、今年度の北特研だよりに掲載させていただきます。

北特研会員の研修意欲を高め、専門性の向上をはかる機会となることを願っています。

令和元年度 北特研会員研究助成金による研究

高等支援学校在籍生徒の

スマートフォン等の使用状況の実態調査

北海道札幌あいの里高等支援学校

教諭 堀端 修司

(共同研究者 兵庫県立大学 環境人間学部 准教授 竹内和雄氏)

スマートフォン等が普及し、子どもたちの日常生活が大きく変化してきている。それに伴いさまざまなトラブルも発生し多様化している。学校では、子どもたちに向けてスマートフォン等のメリットやリスク、トラブルについての対応等さまざまな取り組みが行われているが、特別支援学校在籍生徒の使用状況についての調査研究は、十分に行われてはいない。そこで本研究では、全道の高等支援学校の生徒に実態調査(アンケート)を行いスマートフォン等の使用について明らかにすることを目的とした。

1 調査設計

(1) 調査方法

	生徒調査
調査対象	全道の高等支援学校・高等養護学校の生徒
調査方法	アンケート方式
回収結果	1769人(記入不備を除く) 75.7%

(2) 調査内容

調査対象に対し、下記の13項目について調査した。

1. 夜、何時頃に寝ますか？

1. ~10時 2. 10時~ 3. 11時~ 4. 12時~ 5. 1時~

2. イライラすることがありますか？

1. よくある 2. ある 3. あまりない 4. ない

3. 勉強が好きですか？

1. 好き 2. 少し好き 3. あまり好きでない 4. きらい

4. 携帯電話を持っていますか

1. 持っていない 2. ガラケー (キッズケータイ) 3. スマホ 4. 両方

5. 1日にどれくらいインターネットに接続していますか？ (スマホ、タブレット、ゲーム機なども)

- (平日) 1 しない 2 ~1時間 3 1時間~ 4. 2時間~ 5. 3時間~ 6. 4時間~ 7. 5時間~

- (休日) 1 しない 2 ~1時間 3 1時間~ 4. 2時間~ 5. 3時間~ 6. 4時間~ 7. 5時間~

5. で「1. しない」に ○ をした人はこれで終わりです。

6. 一番、よくネット接続するのは何ですか。1つだけ ○ をつけてください。

1 ガラケー 2 スマホ 3 ゲーム機 4 音楽プレーヤー 5 タブレット 6 パソコン 7 その他

7. 一番、よくするのは次のどれですか？1つだけ ○ をつけてください。

1. LINE やツイッター (SNS) 2. ゲーム 3. YouTube などの動画 4. 勉強

8. LINE など「既読」がついたら、どれくらいで返信しようと思いますか？

1. 気にしない 2. 30分 3. 10分 4. 5分 5. 1分

9. ゲームやスタンプ購入などの課金合計は、どれくらいですか？ (ポイントを貯めた課金もふくむ)

1. 一度もない 2. ~500円 3. 500円~ 4. 1000円~ 5. 5000円~ 6. 10000円~

10. 動画投稿をしたことがありますか？ (YouTube、ストーリー、ツイキャス、LINELIVE などふくむ)

1. 一度もない 2. 一度はある 3. 何度もある

11. ネット上で、けんかやトラブルになったことはありますか？

1. 一度もない 2. 一度はある 3. 何度もある

12. 会ったことがない人とネット上でやりとりをしたことはありますか？

1. 一度もない 2. 一度はある 3. 何度もある

13. ネットで知り合った人と実際に会ったことはありますか？

1. 一度もない 2. 一度はある 3. 何度もある

2 調査結果

(1) アンケート集計人数

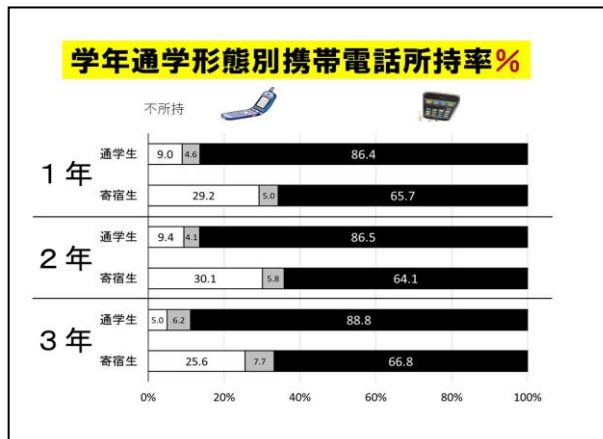
構成比率は、通学生約49%、
寄宿舍51%、男女は、男子約
67%、女子33%となった。

北海道特別支援学校 ネットアンケート2019 (1~3年)			
	男子	女子	合計
1年	433人	216人	649人
2年	366人	178人	544人
3年	394人	182人	576人
合計	1193人	576人	1769人

(2) 携帯電話等の所持率

スマホ、ガラケー携帯を合計すると約80%、通学生が約90%、
寄宿舍生70%となった。

男女差は、あまり見られないが、
通学時の連絡手段のためか、通学生
の比率が高い傾向がある。



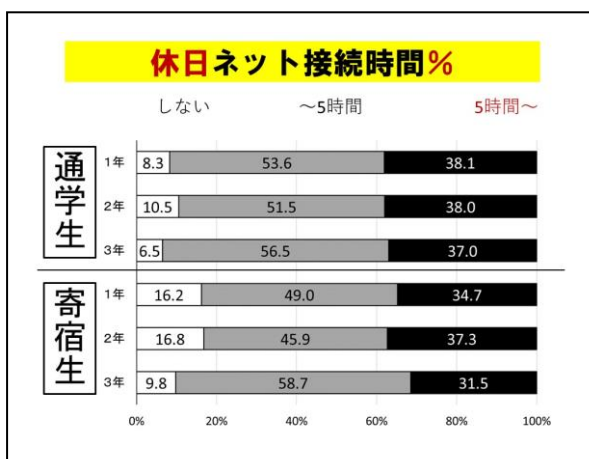
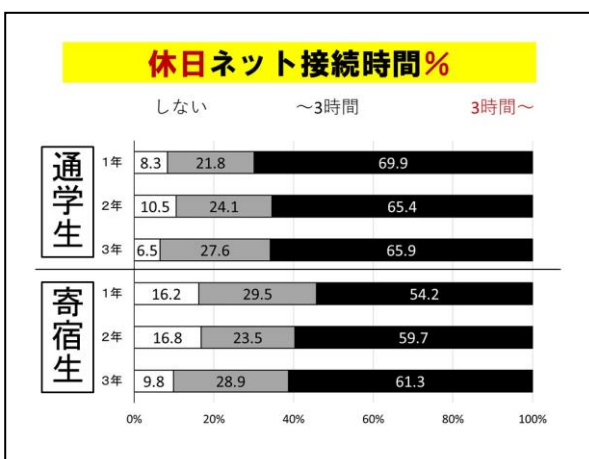
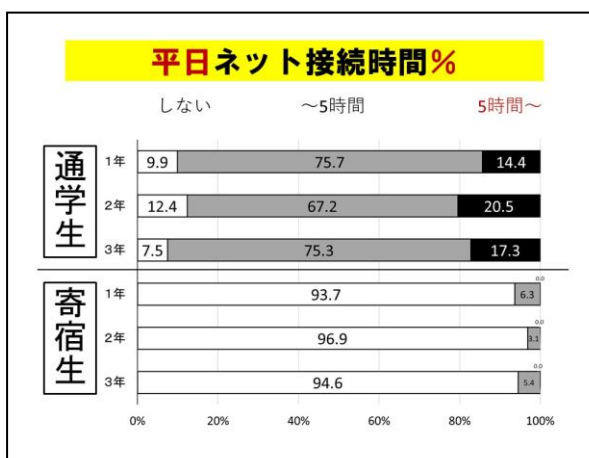
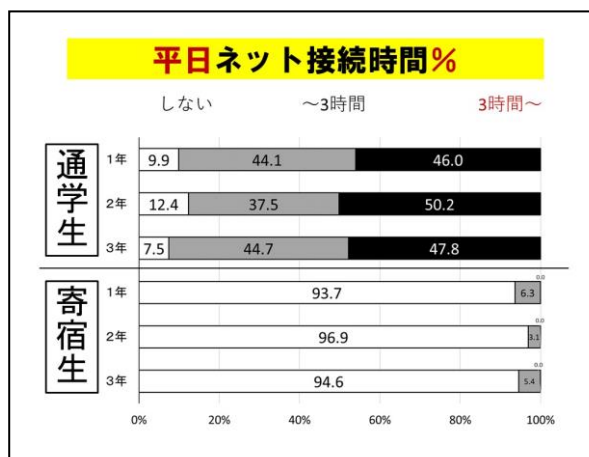
(3) ネット接続時間

平日では、寄宿舎生は、ネット環境でないためほとんどない。

通学生については、3時間以上が約50%、5時間以上も約15~20%となった。

休日では、寄宿舎生で3時間以上が約60%、5時間以上も約35%となった。通学生も3時間以上が約65%、5時間以上約40%となった。

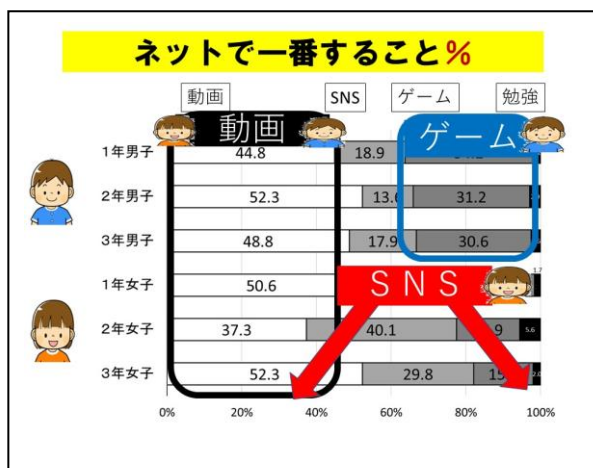
休日については、通学生と寄宿舎生との違いは、見られなかった。



(4) ネットで一番すること

男子は、一位は動画で約50%、二位はゲームで約30%となり、学年間による違いは見られない。

女子では、男子と同じ動画が高い傾向であるが、SNSが一年生で36.1%、二年生が40.1%と高い傾向となった。



3 違い

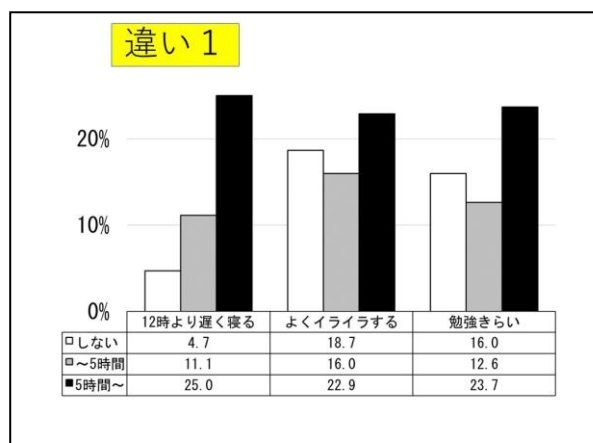
ネットに接続する時間と調査項目の関係性をまとめてみた。

(1) 違い1

就寝時間については、5時間以上は、25%が12時以降に就寝している。

イライラについては、時間との関係性はあまり見られない。

勉強の好き嫌いについては、5時間以上が約10ポイント上回る結果となった。

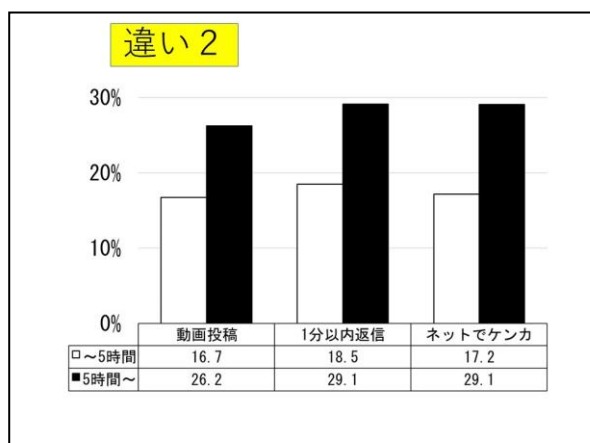


(2) 違い2

動画投稿については、約70%が「一度もない」となったが、5時間以上が「何度もあった」と回答する生徒も多い。

LINEなどの「既読」がついてから返信では、ネットに接続している時間が長時間のためか、5時間以上が「1分」が約30%である。

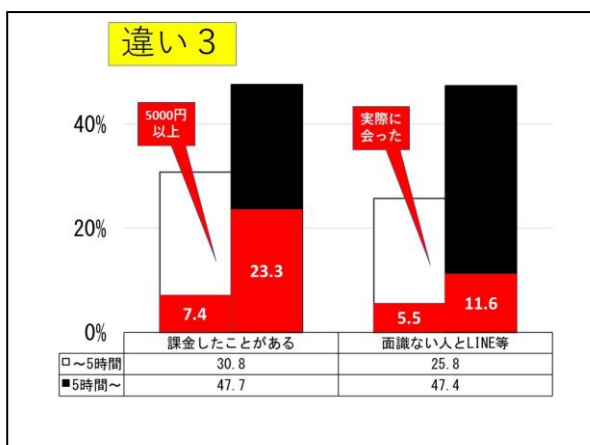
ネット上でケンカやトラブルについては、上記でも述べたがネットに接続している時間が長時間のためか、5時間以上が約30%と5時間未満と約倍となっている。



(3) 違い3

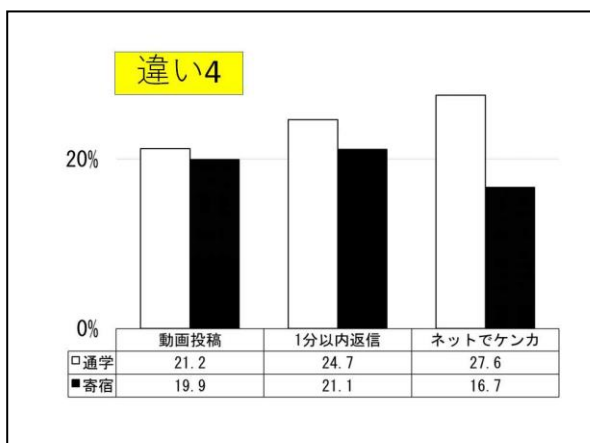
ゲームやスタンプ購入の課金については、ゲームも長時間しているためか5時間以上が約50%、5000円以上の課金も約25%である。

会ったことがない人とネット上でやり取りについては、5時間以上が約50%、実際に会ったも約10%いる。



(4) 違い4

ネットに接続する時間と調査項目の関係性では、通学生と寄宿生とのはっきりとした違いはなかった。しかし、ネット上でのケンカやトラブルについては、通学生が毎日ネットに接続しているためか、通学生が寄宿舎生より多い。



4 まとめ

ネットに接続する時間が5時間以上になると右図のまとめられた結果となった。この結果から私たち大人は、長時間は良くない、制限しようなどと考える。

5時間以上は

- 遅く寝る
- イライラする
- 勉強がきらい
- すぐ返信する
- 課金している
- 動画を投稿している
- ネット上でケンカ
- 面識ない人とLINE等
- 実際に会う

しかし、子ども達は、なぜ長時間するようになったのか？勉強がわからなくきらい、友達がない、暇だから、遊ぶ相手が近くにいない、だれも話を聞いてくれないなどさまざまな理由があると推察される。これらの問題解決も大事な視点であるが、すぐには解決できず、それが解決できても長時間しないということにはならない。

調査の中で一番ネットに接続する機器は予想どおり「スマホ」という結果であった。現代では、私たちが含めスマホなしでの生活は、大変難しい。

それでは、このネットの接続時間をどのようにすれば良いか？「スマホに支配されない生活の構築」だと考える。「スマホに支配」？それはどういうことか。たとえばお酒。お酒は、毎日飲まない、適量など節度をもって飲むと特に問題はないが、お酒中心のアルコール依存症になると生活も体も支障をきたすことになる。スマホに支配され、スマホが手放すことができず、生活もスマホ中心になることにより、ゲームやLINE、SNSなどが優先され、学校や食事、睡眠などが疎かになる。

この「スマホに支配されない生活の構築」、使用時間を決める、スマホを手元になくても不安にならないなど、スマホとの良い付き合い方を大人だけでなくみんなで考えていくことが必要だと考える。